

ID	発現日	番号	報告者名	報告者機関名	生物由来成因	測定方法	疾患国	合併症	文獻	年齢	性別	潜伏期間	既往歴	検査結果	参考文献	概要	
																概要	
															C型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 261-267	2003年4~10月にイタリアの血液透析施設で患者4名にHCV抗体セロコンバージョンが認められた。この4名と以前からHCV抗体陽性であった10名のHCV RNAおよびHCV遺伝子型を検査し、系統遺伝学的解析をした結果、新規感染患者4名のHCVは遺伝子型2aで、2c型慢性感染患者1名から分離されたウイルスと近縁であった。感染制御手段の不備と装置による伝播が疑われた。
															E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	英国サウスハンプシャーの単一施設において2005年6月から13ヶ月間にE型肝炎13例が発生した。これらの患者はルーチンのE型肝炎血清検査を導入開始後に特定された。同一期間中A型肝炎は2例、B型肝炎は4例であったことから、原因不明の急性肝疾患を発症し、関連する渡航歴のない患者全員にルーチンのE型肝炎検査を実施することが重要と考えられる。
															E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	2004年1月1日~2006年12月31日に腎移植(241名)または肝移植(86名)を受けた患者の移植時の抗HEV IgG保有率は、各々14.5%または10.4%であった。この内、肝移植を受けた3名、腎移植を受けた9名、腎臓と脾臓の移植を受けた2名の計14名で急性HEV感染を同定したが、全員血清HEV RNA陽性であり、内8名が慢性肝炎となつた。移植から診断までの時間は短く、慢性肝炎に進展した患者ではリンパ球数並びにCD2、CD3およびCD4 T細胞数が有意に低かった。
															E型肝炎	第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 O-026	北海道地区において現行プールNATスクリーニングの残量を用いてTaqMan RT-PCR法によるHEV NATスクリーニングを行った。陽性献血者85例について追跡調査および遡及調査などを行なった。陽性献血者の多くは動物内臓肉を食してHEVに感染したと考えられる新規感染者で、GenotypeはG3が多かった。多くは症状が現れないまま抗体が陽転化し、典型的な無症候性一過性感染の経過をたどった。
															エボラ出血	ProMED-mail20071130.3869	保健当局は、ウガンダ西部において16名が死亡し、他に50人が罹患したエボラウイルスは、新規の株であると2007年11月30日に発表した。最初の症例はコンゴ民主共和国と国境を接するBundibugyo地区において11月10日に報告された。この株では出血はあまり見られず、患者は高熱の後、死亡する。

件	発現日	品目	報告者名	商品名	生産由来	販売形態	原産国	販売区分	有効成分	有	無	無	細菌感染	参考文献	参考文献	摘要
247	2008/06/17	80247	日本赤十字社	人全血液	人全血液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	無	細菌感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 193-201	80246に同じ	
													感染	Transfusion 2007; 47: 2338-2347	80246に同じ	
													感染	ABC Newsletter 2008年1月11日	80246に同じ	
													感染	Transfusion 2008; 48: 304-313	80246に同じ	
													感染	Transfusion 2008; 48: 697-705	80246に同じ	
													ブルセラ症	J Travel Med 2007; 14: 343-345	80246に同じ	
													細菌感染	第56回 日本輸血・ 細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 WS-3-3	80246に同じ	
													ペスト	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1459- 1462	80246に同じ	
													梅毒	SignOnSanDiego.co m 2008年3月26日	80246に同じ	
													アメリカ・トリバ ノソーマ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e44-47	80246に同じ	

ID	受理日	報告者	報告者名	報告年月日	生物由来成因	発病年月日	原産国	疫 情 分類	文書種別	登録番号	参考文献(PDF)	登録年月日	登録状況	概要
											ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645	80246に同じ	
											ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	80246に同じ	
											チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	80246に同じ	
											リンパ性脈絡膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80246に同じ	
											ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 1972-1983	80246に同じ	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80246に同じ	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20080107.0087	80246に同じ	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231	80246に同じ	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2008; 82: 3697-3701	80246に同じ	
											BSE	OIE／World animal health situation 2008年3月31日	80246に同じ	

ID	発現日	番号	報告者名	報告者機関名	生物由来成因	発行機関名	原産国	合意区分	種類	発見年月日	参考文献(PE)	参考文献出典	概要	
													疾患名	発見地
									BSE	2008年4月17日	OIE／World animal health situation	80246に同じ		
									HIV	AIDS 2007; 21: 2351-2353		80246に同じ		
									HTLV	Américan Society of Hematology 2007年12月8-11日		80246に同じ		
									インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870		80246に同じ		
									インフルエンザ	AABB Weekly Report 2008年2月29日		80246に同じ		
									鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月9日		80246に同じ		
									B型肝炎	第37回 日本肝臓学会西部会 2007年12月7-8日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522		80246に同じ		
									B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 286-294		80246に同じ		
									感染	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31		80246に同じ		
									B型肝炎C型肝炎	第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 P-033		80246に同じ		

ID	受理日	署名	報告者名	一般名	生物由来品 の名	原产地名	原産国	含有成分	有効 成分	無効 成分	既存規 格	参考文献	発表会議 等	概要
											C型肝炎	American Society for the Study of Liver Diseases 2007年11月2-6日	80246に同じ	
											C型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 261-267	80246に同じ	
											E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	80246に同じ	
											E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	80246に同じ	
											E型肝炎	第56回日本輸血・ 細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 O-028	80246に同じ	
											エボラ出血	ProMED-mail20071130.3869	80246に同じ	
248	2008/06/17	80248	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免 疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	感染	Transfusion 2008; 48: 697-705	欧州の3つの血液センターにおけるアモツサレンおよびUVAによるフォトケミカル処理(PCT)過程のプロセスバリデーション試験を行った。フィブリノーゲンおよび第VIII因子はPCTにより平均26%減少したが、治療用血漿として十分なレベルを保持していた。他の凝固因子は対照FFPのレベルの81-97%であった。PCT処理済FFP中の凝固因子が治療用血漿に関する欧州規制および国内基準の範囲内に保持されることが示された。
											ペスト	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1459-1462	2003年6月から7月にアルジェリアOran地区においてペストの集団感染が発生した。同国では、この疾患は50年以上上報告されていなかった。腺ペスト症例18名が特定され、Yersinia pestisが6名から分離された。初発患者を除き、全員が回復した。標的予防的化学療法、衛生、ベクターコントロールが、感染制御上重要な役割を果たした。疫学的、分子生物学的な知見から、当該期間中、現地の保菌動物の存在が強く示唆されたが、その起源については特定できなかった。	

ID	発見年月日	報告者名	報告者名	生地由来	発見地名	原産国	台数	性別	年齢	感染原因	参考文献	概要
										ウイルス感染	ProMED-mail 20080218.0645	2008年1月21日、Braziliaで32歳の男性が黄熱のため死亡した。これは、ブラジルにおける15人目の黄熱死亡患者である。Mato Grossoでも1名の感染と死亡が確認された。パラグアイ保健当局は首都Asuncionの病院で集中治療を受けていた39歳の女性が2008年2月16日に死亡したと発表した。同国ではこれまでに、少なくとも6名が黄熱によって死亡した。多くの市民がワクチン投与を求めて病院に殺到している。
										ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	米国4州における2006-2007年のアデノウイルス血清型14(Ad14)に関連した急性呼吸器疾患に関する報告である。Ad14は稀にしか報告されないが、全ての年齢層の患者に重症で致死的な呼吸器疾患を起こす可能性がある。2006年5月にニューヨーク州で生後12日目の乳児がAd14感染により死亡し、07年3-6月にオレゴン州、ワシントン州およびテキサス州で計140名の感染患者が確認された。これらの患者から新規のAd14変異種が分離された。
										チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	イタリア北東部の隣接する2つの村で原因不明の発熱性疾患患者が多数報告され、ヒトおよび蚊由来の検体を分析した結果、チクングニヤウイルス(CHIKV)が原因であることが明らかとなった。2007年7月4日から9月27日の間に205例のCHIKV感染症例を同定した。村の親戚を訪問した時に発症したインド出身男性が初発症例と推定された。系統遺伝学的分析により、イタリアのCHIKV株はインド洋諸島での初期のアウトブレイクで分離された株と高い同様性を示した。
										バルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	米国の血液センター7施設において2000-2003年の期間に採取した5020名の供血者由来の保存血漿検体を高感度PCRスクリーニング法を用いてバルボウイルスB19 DNAについて検査した。B19 DNA陽性率は0.88%であった。DNA陽性検体の全てがIgG陽性で、23%がIgM陽性であった。IgM血清陽性率はDNA値と相關した。
										バルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	B19V IgG力値に関係したB19V中和の役割を検討するため、製造血漿プール1000以上について酵素免疫測定法による検査を実施した。血漿プールは平均 33 ± 9 IU/mL (最小値11IU/mL) のB19V IgG力値を含有し、これらの11IU/mLのB19V IgGは、B19V遺伝子型1の感染性を4.6 log、遺伝子型2の感染性を3.9 log以上を中和した。このため、このようなプール由来の10%静注用免疫グロブリン製剤(IVIG)は、さらに高いB19V中和活性を含有することが明らかとなった。

ID	発見日	薬品	報告者名	報告者所属機関名	生物由来成因	発見地名	原産国	分子生物学	スクリーニング	検出方法	参考文献	摘要
											リンパ性脈絡膜炎 N Engl J Med 2008; 358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
											ウイルス感染 Transfusion 2007; 47: 1972-1983	供血者血漿検体中のサイトメガロウイルス(CMV) DNA陽性率を検討した。過去にCMV血清陰性で初めて抗CMV IgG陽性を示した供血者82名の血漿検体44%が反復的にCMV DNA陽性であった。1年以上血清反応陽性または血清反応陰性供血者はいずれもCMV DNA陰性であった。白血球除去の実施にもかかわらず、新規血清反応陽性供血者のウイルス血症は輸血伝搬性CMVの残存リスクの重要な原因と考えられる。
											クロイツフェルト・ヤコブ病 2007年プリオン研究会 Poster-20	日本の人口動態統計では、CJDによる死亡は過去20年以上に渡り増加傾向を示し、2005年は人口100万対1.23人であった。CJDサーベイランス委員会による調査では過去8年間に918例がプリオン病と判定された。病型別では、孤発性CJD 716例、遺伝性プリオン病 128例、感染性(獲得性)CJD 72例(変異型CJD 1例、硬膜移植後CJD 71例)、および分類不能 2例であった。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病 Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、vCJDでみられるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的vCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコードン129はホモバリンであった。
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病 2007年プリオン研究会 Poster-38	BSE感染ウシ由来の脳乳剤を用いてPrPresのin vitro感染系の確立を試みた。感染させたヒト由来グリオーマ細胞株から抗プリオン抗体に反応する約30KのPK耐性のバンドが検出された。このバンドは非感染細胞には存在しなかった。また、9ヶ月継代した感染細胞の培養上清に伝達性があることが明らかとなった。さらに20nmのウイルス除去膜によって培養上清の伝達性が減少することが認められた。

ID	発現日	背景	報告者名	報告者機関名	生物由来	原初病名	癲癇国	癲癇区分	文献	参考	参考用 認定基準(日本)	参考用 検出率(%)	概要	
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ProMED-mail20080107.0087		英国National CJD Surveillance Unitに報告された2008年1月7日現在のCJD数は、vCJD診断確定死亡症例(確定例)114名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断がない)48名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断待ち)1名で、vCJD診断確定または可能性例の死亡総数163名であった。生存中のvCJD可能性症例数は3名であった。英国におけるvCJD流行は減少しつつあるという見解に一致する。
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221– 1231		感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめったに検出されない。新規の酸性SDS沈殿法と高感度化学発光法と組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タンパクが、スクレイピー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは検出されないことが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集しており、スクレイピー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。
											異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Virol 2008; 82: 3697–3701		非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASEウシ由來の脳モジネットを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種したところ、60%が20–22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感染ヒト化Tgマウス脳における病因性プリオンのアソシオームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒトプリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ向性であった。
											BSE	OIE／World animal health situation 2008年3月31日		1989年から2008年3月までに、英国以外の世界各国から国際獣疫事務局(OIE)に報告された畜牛におけるBSE症例数である。2006年は、スペイン68頭、アイルランド41頭、ポルトガル33頭、ドイツ16頭、日本およびボーランド10頭、フランス8頭、イタリア7頭、スイスおよびカナダ5頭、チェコ3頭、オーストリア、ベルギーおよびオランダ2頭、スロベニア、スウェーデンおよび米国1頭である。2008年には、これまでにカナダ1頭、アイルランド6頭が報告されている。
											BSE	OIE／World animal health situation 2008年4月17日		2008年3月までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSE数である。1987年以前は英國全体で446頭であったが、1992年には37280頭となった。その後、減少し、2007年には67頭となった。2008年は3月31までに10頭報告されている。